

(51)Int.Cl.<sup>5</sup>  
A 61 K 7/025

識別記号

府内整理番号  
9165-4C

F I

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数1(全5頁)

(21)出願番号 特願平4-26635  
 (22)出願日 平成4年(1992)2月13日

(71)出願人 00014582  
 株式会社コーセー  
 東京都中央区日本橋3丁目6番2号  
 (72)発明者 大福 啓美  
 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー  
 一研究所内  
 (72)発明者 高野 健  
 東京都北区栄町48番18号 株式会社コーセー  
 一研究所内  
 (74)代理人 弁理士 有賀 三幸 (外2名)

(54)【発明の名称】 口紅オーバーコート

(57)【要約】

【構成】 次の成分(a)及び(b)

(a)一般式(1)

【化1】

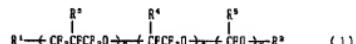
で表わされるバーフルオロポリエーテル

75~99.8重量%

(b)シリカ粉末及び/又はアルミナ粉末

0.2~2.5重量%

を含有することを特徴とする口紅オーバーコート。



【効果】 口紅を塗布した上に塗布することにより口紅

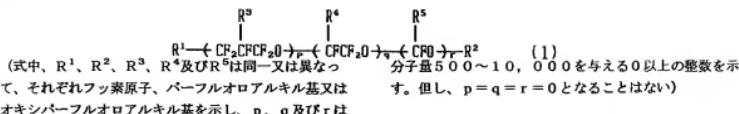
発現し、経時に口紅の輪郭が不鮮明になる、いわゆる色にじみも抑えることができ、しかもベースト状であるため簡便に使用することができる。

の化粧効果の持続性を著しく改善し、口紅の食器等への

付着を抑えることができる。また、塗布後直ちに効果が

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項1】 次の成分 (a) 及び (b)



で表わされるバーフルオロポリエーテル

(b) シリカ粉末及び/又はアルミナ粉末

を含有することを特徴とする口紅オーバーコート。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、口紅オーバーコートに關し、更に詳細には、口紅を塗布した上に塗布することにより口紅の化粧効果の持続性を改善し、食器等への付着を抑える口紅オーバーコートに関する。

## 【0002】

【従来の技術及び発明が解決しようとする課題】従来、口紅オーバーコートは、口紅の化粧効果の持続性、光沢の改善等を目的とした商品として提供されている。これらの口紅オーバーコートは、水系若しくはアルコール系に、セルロース系高分子化合物、ビニル系樹脂、アクリル系樹脂等の高分子化合物やシリコン油などを配合し、配合する高分子化合物などの特性を利用するもの、又は油分を混合した粉体を主成分とした粉末状若しくはプレス状のものであった。(特開昭61-1283号公報、特開昭61-24512号公報)。

【0003】しかしながら、従来の口紅オーバーコートは、口紅の食器等への付着(色うつり)を防ぐには充分満足できるものではなかった。また、粉末状のものは使用性が悪く、塗布の仕方により効果にムラがでてしまうとともに、高分子化合物等を配合するタイプのものは使用感にはべたつきがあり、官能面においても問題があつ

## 【(a) 一般式 (1)】

## 【(b)】

$$\begin{array}{c}
 \text{R}^3 \quad \text{R}^4 \quad \text{R}^5 \\
 | \quad | \quad | \\
 \text{R}^1 \leftarrow \text{C}(\text{F}_2)\text{C}(\text{F}_2)\text{C}(\text{F}_2)\text{O} \rightarrow \text{p} \leftarrow \text{C}(\text{F}_2)\text{C}(\text{F}_2)\text{O} \rightarrow \text{q} \leftarrow \text{C}(\text{F}_2) \rightarrow \text{R}^2
 \end{array}$$

(1)  
分子量500～10,000を与える0以上の整数を示す。但し、p=q=r=0となることはない)

7.5～9.9.8重量%

0.2～2.5重量%

た。

【0004】このため、口紅の化粧効果の持続性を改善し、口紅の色うつりを抑えることができ、しかも使用性に優れた口紅オーバーコートが望まれていた。

【0005】一方、バーフルオロポリエーテルは、撥水性及び撥油性に優れたフッ素系の液体油剤であり、これを応用した化粧料が知られている(特開昭63-107911号公報、特開平3-246211号公報、特開平3-246212号公報、特開平3-264511号公報等)。しかしながら、これを口紅オーバーコートに応用する試みは未だなされていない。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】かかる実情において、本発明者らは統意研究を行った結果、バーフルオロポリエーテルに特定の粉体を特定量配合すれば、口紅の化粧効果の持続性を改善し、口紅の食器等への付着及び色にじみを抑え、しかも簡便に使用ができる口紅オーバーコートが得られることを見出し、本発明を完成した。

【0007】すなわち、本発明は、次の成分 (a) 及び (b)

## (a) 一般式 (1)

## 【0008】

## 【(b)】

$$\begin{array}{c}
 \text{R}^3 \quad \text{R}^4 \quad \text{R}^5 \\
 | \quad | \quad | \\
 \text{R}^1 \leftarrow \text{C}(\text{F}_2)\text{C}(\text{F}_2)\text{C}(\text{F}_2)\text{O} \rightarrow \text{p} \leftarrow \text{C}(\text{F}_2)\text{C}(\text{F}_2)\text{O} \rightarrow \text{q} \leftarrow \text{C}(\text{F}_2) \rightarrow \text{R}^2
 \end{array}$$

(1)  
p、q及びrは分子量500～10,000を与える0以上の整数を示す。但し、p=q=r=0となることはない)

7.5～9.9.8重量%

0.2～2.5重量%

【0009】(式中、R<sup>1</sup>、R<sup>2</sup>、R<sup>3</sup>、R<sup>4</sup>及びR<sup>5</sup>は同一又は異なつて、それぞれフッ素原子、バーフルオロアルキル基又はオキシバーフルオロアルキル基を示し、

で表わされるバーフルオロポリエーテル

(b) シリカ粉末及び/又はアルミナ粉末

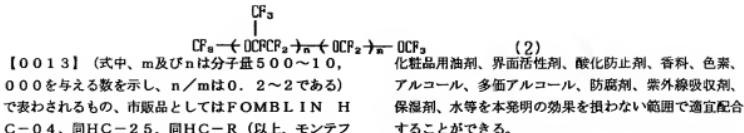
を含有することを特徴とする口紅オーバーコートを提供するものである。

【0010】本発明で用いられる (a) 成分のバーフルオロポリエーテルは、前記一般式 (1) で表わされるものであり、撥水性及び撥油性を有し、室温(約25℃)で不揮発性の液体である。

【0011】これらのうち、特に粘度が5～5,000cStのバーフルオロポリエーテルが好ましく、例えば次の一般式 (2)

## 【0012】

## 【(b)】



【0014】

【化4】

【 $\text{OCF}_3$ 】(式中、nは分子量500～10,000の数を示す)で表わされるもの、市販品としてはデムナムS-20、同S-65、同S-100、同S-200(ダイキン工業(株)製)等が挙げられる。

【0016】これらバーフルオロポリエーテルは、全組成中に7.5～9.9、8重量%、好ましくは8.0～9.9重量%配合される。7.5重量%未満では使用性がよくなく、9.9、8重量%を超えると(b)成分の配合量が少なくなりすぎる所以好ましくない。

【0017】また、(b)成分のシリカ粉末及びアルミニナ粉末は、通常の化粧料に用いられるものであればよく、例えはサイロイド55(富士デヴィン化学(株)製)、エロジール200、300、R-972、R-974(不二化成(株)製)、アルミニナAKS-G、AKP-30、AKP-GM(住友化学(株)製)等を好適に使用することができる。

【0018】これらのシリカ粉末及びアルミニナ粉末は、単独又は2種以上を組合せて用いることができ、全組成中に0.2～2.5重量%、好ましくは1～2.0重量%配合される。0.2重量%未満では審美的効果が得られず、2.5重量%を超えると塗布しづらくなるので好ましくない。

【0019】さらに、本発明においては、前記必須成分のほか、通常の化粧料に用いられる成分、例えは炭化水素、高級脂肪酸エステル、動植物油脂、シリコーン等の

化粧品用油剤、界面活性剤、酸化防止剤、香料、色素、アルコール、多価アルコール、防腐剤、紫外線吸収剤、保湿剤、水等を本発明の効果を損わない範囲で適宜配合することができます。

【0020】本発明の口紅オーバーコートは、(a)成分のバーフルオロポリエーテルに、(b)成分のシリカ粉末及び/又はアルミニナ粉末を加え、混合することにより製造することができ、ペースト状の形態として得られる。

【0021】

【発明の効果】本発明の口紅オーバーコートは、口紅を塗布した上に塗布することにより口紅の化粧効果の持続性を著しく改善し、口紅の食器等への付着を抑えることができる。また、塗布後直ちに効果が発現し、経時に口紅の輪郭が不鮮明になる、いわゆる色にじみも抑えることができ、しかもペースト状であるため簡単に使用することができる。

【0022】

【実施例】次に実施例を挙げて本発明を更に説明するが、本発明はこれら実施例に限定されるものではない。

試験例1

バーフルオロポリエーテル及び表1に示す各種の粉末を混合して試料(1)～(8)の口紅オーバーコートを調製し、カップ等への付着(色うつり)防止効果を評価した。結果を表1に示す。

(試験方法)ヒト上腕部に口紅を長さ3cmに2回塗布し、その上に口紅オーバーコートを塗布した後、ガラス板を押しつけて色うつりを見た。色うつり防止効果の優れているものを○、やや効果のあるものを△、効果のないものを×として評価した。

【0023】

【表1】

成 分 (単)	試 料							
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)
バーフルオロポリエーテル*1	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0	50.0
シリカ*2	1.7	—	—	—	—	—	—	—
アルミナ*3	—	1.7	—	—	—	—	—	—
酸化チタン	—	—	1.0	—	—	—	—	—
酸化亜鉛	—	—	—	2.0	—	—	—	—
タルク	—	—	—	—	1.0	—	1.0	—
マイカ	—	—	—	—	—	1.0	—	—
有機変性ペントナイト	—	—	—	—	—	—	1.0	—
色うつり防止効果	○	○	×	×	×	×	×	×

\*1 FOMBLIN HC-04

\*2 サイロイド55

【0024】表1の結果から明らかな如く、バーフルオロポリエーテルのみの試料(8)では効果がなく、また種々の粉末を混合した試料のうち、シリカ又はアルミナ

粉末を混合したもの(試料(1)及び(2))のみに、顯著な色うつり防止効果が認められた。

【0025】実施例1

(重量%)

(处方)	
(1) バーフルオロポリエーテル	
(FOMBLIN HC-04)	92.79
(2) シリカ (エロジールR-972)	5.0
(3) 赤色202号	0.1
(4) 黄色4号	0.1
(5) 鐵母チタン	2.0
(6) ヒアルロン酸	0.01

(製法) 成分(1)に成分(2)～(6)を添加し、均一に混合してロ紅オーバーコートを製造する。

【0026】実施例2

(重量%)

(处方)	
(1) バーフルオロポリエーテル	
(FOMBLIN HC-04)	80.0
(2) アルミナ (アルミナAKS-G)	19.0
(3) グリセリン	1.0

(製法) 実施例1と同様にして製造する。

【0027】実施例3

(重量%)

(处方)	
(1) バーフルオロポリエーテル	
(FOMBLIN HC-25)	98.8
(2) シリカ (エロジール300)	1.0
(3) 赤色202号	0.1
(4) 香料	0.1

(製法) 実施例1と同様にして製造する。

【0028】実施例4

(重量%)

(1) パーフルオロポリエーテル (F O M B L I N H C - 2 5 )	9 9 . 5
(2) シリカ (エロジール 3 0 0 )	0 . 5
(製法) 実施例 1 と同様にして製造する。 (処方)	【 0 0 2 9 】 比較例 1 (重量%)
(1) パーフルオロポリエーテル (F O M B L I N H C - 0 4 )	7 0 . 0
(2) アルミナ (アルミナ A K S - G )	3 0 . 0
(製法) 実施例 1 と同様にして製造する。 (処方)	【 0 0 3 0 】 比較例 2 (重量%)
(1) パーフルオロポリエーテル (F O M B L I N H C - 0 4 )	7 0 . 0
(2) グリセリン	3 0 . 0
(製法) 実施例 1 と同様にして製造する。 (処方)	【 0 0 3 1 】 比較例 3 (重量%)
(1) パーフルオロポリエーテル (F O M B L I N H C - 2 5 )	8 0 . 0
(2) カルボキシビニルポリマー (1%水溶液)	1 0 . 0
(3) 水酸化ナトリウム (1%水溶液)	2 . 0
(4) 精製水	8 . 0

(製法) 実施例 1 と同様にして製造する。

#### 【 0 0 3 2 】 試験例 2

実施例 1 ~ 4 及び比較例 1 ~ 3 のロ紅オーバーコートについて、カップ等への付着 (色うつり) 防止効果、化粧効果の持続性及び使用性を評価した。結果を表 2 に示す。

#### (試験方法)

色うつり防止効果 : 試験例 1 と同様

化粧効果の持続性 :

パネルに通常の生活をしてもらい、唇にロ紅を塗布し、

その上に半分には実施例のロ紅オーバーコートを、もう

半分には比較例のものを塗布し、半日後の化粧もちらを左右で比較した。効果の優れているものを○、やや効果のあるものを△、効果のないものを×として評価した。  
使用性 : ロ紅を塗布し、その上に実施例又は比較例のロ紅オーバーコートを塗布し、塗布のしやすさ、化粧摸の均一性等の使用性を評価した。使用性が良好なものを○、やや問題はあるが使用可能なものを△、全く使用できないものを×として評価した。

#### 【 0 0 3 3 】

#### 【表 2】

	実施例				比較例		
	1	2	3	4	1	2	3
色うつり防止効果	○	○	○	○	△	×	×
化粧効果の持続性	○	○	○	○	△	×	×
使用性	○	○	○	○	×	△	○

【 0 0 3 4 】 表 2 の結果から明らかのように、本発明のロ紅オーバーコートは、色うつり防止効果及び化粧効果

の持続性に優れ、しかも使用性も良好なものであった。